

2017年度(平成29年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
最終更新日	2018年(平成30年)3月1日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
---

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。しかし、目標が達成できていないものもある。校内研修での指導法の工夫改善、各学年での取組の工夫改善を図り、取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果、城北中学校区は、概ね県平均を上回っている。また、校区共通で取り組んだことで、「家庭学習の定着」や「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきているが、自分から進んで行うことにはまだ課題がある。</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&amp;倫理観”</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力、他者とかかわる力、社会貢献力、自己形成能力</p> <p>じっくり考え、はっきり表現し、くり返し粘り強く挑戦する児童・生徒 (J) (H) (K)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組</li> <li>毎月15日にあいさつデーとして校区合同挨拶運動の取組</li> <li>中学校のテスト期間に合わせて家庭学習頑張り週間とノーメディアデーの取組</li> <li>合同行事・乗り入れ授業・「総合的な学習の時間」発表会の取組</li> </ul>
--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&amp;倫理観”</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>主体的に学ぶ力</p> <p>生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。</p>	<p>思考力</p> <p>より良い解決に向けて、目的や意図に応じて論理的に考えようとしている。</p>	<p>表現力</p> <p>必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。</p>	<p>他者と関わる力</p> <p>初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成</p>	<p>研究</p> <p>教科等 社会科 外国語活動</p> <p>主題・内容等 ともに考え 学び合う授業の創造 ～J(じっくり考える) H(はっきり表現する) K(くり返し挑戦する)を踏まえて～</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>① 主体的な学びになるよう、板書計画を立て授業の工夫を行っている。㊦</p> <p>② 自分の考えをまとめ書く時間や考えたことを練り合う場面を確保し、手立てが設定されている。㊧㊨</p> <p>③ グループやペア等の活動を通して他者と関わり合う場面が設定されている。㊩</p>			
<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査では、全国平均を上回った。</li> <li>学校のルールを守る児童が増加し規範意識が高まった。</li> <li>「無言掃除」「地域行事への参加」等、主体的に考え行動できる力を高めていく必要がある。</li> </ul> <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎・基本」定着状況調査では、理科は県平均を上回ったが、国語、算数が県平均を下回った。基礎的な学力を定着させていく必要がある。</li> <li>「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合(「基礎・基本」定着状況調査アンケート)が、60.6%(県67.0%)である。自分の考えをまとめ書くこと、考えを練り合い深めていくことを継続して取り組んでいく必要がある。</li> </ul>					

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力 <sub>レ</sub> セ <sub>セ</sub> 達成 <sub>セ</sub> 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力 <sub>レ</sub> セ <sub>セ</sub> 達成 <sub>セ</sub> 評価	総合 <sub>セ</sub> 評価	改善方策		
2	自ら考え学ぶ生徒の育成と基礎学力の定着	★	継続	①授業改善を図り、基礎基本の学力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な授業づくり研修会を実施する。(導入, ねらい, 主発問, 振り返り)(年3回以上)</li> <li>帯タイム(スキルタイム)で、漢字・ことば・計算問題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語、算数の単元テストの通過率を、90%以上にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善を意識した実践的な授業づくりは、外国語活動(各学年1回)、社会科(3年生以上1回)実施。</li> <li>帯タイムは、週単位で計画的にできた。</li> <li>単元テスト通過率は、国語88.4、算数89.1%平均88.8%であった。</li> </ul>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>帯タイムを活用して、漢字や計算の練習を継続するとともに、定着率の低いスキルについては、家庭学習に取り入れるなどして、反復練習を行う。</li> <li>目的や意図に応じた記述ができるよう、キーワードを提示し、条件付きで書かせる指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善を意識した実践的な授業づくりは、外国語活動(各学年1回以上)、社会科(3年生以上1回)実施。</li> <li>帯タイムは、週単位で計画的にできた。</li> <li>2学期の単元テスト通過率は、国語88.7、算数89.0%平均88.8%であった。</li> </ul>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項と関連させながら、条件を付けて書かせる。</li> <li>根拠をもとに自分の考えを書かせ、交流させる。</li> <li>各単元の中に、ペア・グループ学習を位置付ける。(国・算)</li> <li>話型等を使い、順序立てた説明の仕方を身に付けさせる。</li> </ul>
				継続	②家庭学習の習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習がんだり週間を実施する。(年5回)</li> <li>家庭学習の手引、自主勉強のすすめ、がんばりカードの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定時間以上家庭学習する児童を95%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習がんだり週間は、3回実施。(1学期2回、2学期1回)</li> <li>設定時間以上家庭学習を行った児童は、94.8%であった。</li> </ul>	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で手本となる学習ノートや自主学習ノートを掲示し、児童に見通しを持たせる。</li> <li>引き続き家庭学習の手引きを活用し、学習に対する主体性を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習がんだり週間は、5回実施。(1学期2回、2学期2回、3学期1回実施予定)</li> <li>2学期に設定時間以上家庭学習を行った児童は、95.8%であった。(年間95.3%)</li> </ul>	4	4	4

2	主体性の育成	★	継続	主体的に考え行動できる児童にする。	縦割り班掃除を実施する。 (振り返りカード)	・縦割り班掃除において、そうじ名人を90%以上にする。 ・プラス1掃除ができる児童を80%以上にする。	・1学期たて割り班掃除において、そうじ名人、プラス1掃除ができた児童が90%であった。	4	4	・名人に達していない児童には、リーダーが掃除の仕方を教え、できるまで指導する。 ・継続して振り返りカードを活用する。	・2学期たて割り班掃除において、そうじ名人、プラス1掃除ができた児童が95%であった。	4	5	5	・2学期末までに名人に達していない児童(9人)には、リーダーが掃除の仕方を教え、できるまで指導する。 ・継続して振り返りカードを活用する。
			継続	規範意識を高める。	・児童会目標を設定し、振り返りカードを活用する。 (毎月)	・学校のルール(あすなろ)を守っている児童が93%以上にする。	学校のルール(あすなろ)を守っている児童が96%であった。(あいさつ99%、スリッパそろえ98%、名札98%、廊下歩行90%)	4	4	・児童会からの呼びかけで、毎月の生活目標の中に目指す姿を示し、全児童の意識を高めることを継続して行う。	・1月末現在、学校のルール(あすなろ)を守っている児童が94%であった。(あいさつ92%、スリッパそろえ97%、名札99%、廊下歩行89%)達成率は若干下がったが、全体のレベルが上がり、評価が厳しくなったことが要因であると考える。	4	4	4	・1,2月の児童会生活目標として「あすなろパーフェクト」を設定し、強化週間を設ける。全児童が100%守れるよう意識を高める。
2	たくましく生きる体力の向上		継続	目標を持って体力づくりができる児童にする。	・朝体育を実施する。 ・学年重点目標を設定し、課題改善に取り組む。	・新体力テストにおいて、県平均を上回っている項目を75%以上にする。 ・体育の時間における各学年の重点取組を100%実施する。	・学年重点目標に基づいた運動を、朝体育や体育の時間のウォーミングアップとして行い、体力改善に取り組んだ。 ・新体力テストにおいて県平均を上回る項目は75%だった。	3	3	・各学年の進捗状況を確認し、引き続き課題改善に向けた取組が100%実施できるようにする。 ・縄跳び検定や持久走練習等、全校の取組と連動させながら、体力向上への意識を高める。	・各学年の重点取組を体育の学習等で、100%実施することができた。 ・全校で持久走練習や縄跳び練習に取り組み、体を動かすことへの意識付けをすることができた。	4	4	4	・進捗の確認を引き続き行っていく。 ・各学年の課題を次年度に引き継ぎ、取組を継続する。

2	授業力の向上	★	継続	自ら考え学ぶ授業を創造する。	・つけない力を明確にした授業実践を行う。	・各学年、単元計画を立て(重点単元)授業実践する。	・各学年、学力調査等の分析をもとに重点単元を設定し、授業実践を行った。	3	3	今後も継続して、指導案検討、模擬授業、授業後の協議を行い、授業力の向上を図る。	・各学年、重点単元を中心に授業実践を行うとともに、カリキュラムマップの見直しを行った。	4	4	4	・次年度に向けてカリキュラムマップの見直しを行い、重点単元を意識した授業実践を行う。
2	地域貢献できる児童の育成		新規	地域とつながる教育活動を行う。	・積極的に地域と関わるができる児童にする。	・地域行事への参加(一人2回以上100%) ・各学年、地域教材、地域人材を活用した実践を行う。(年1回以上)	・地域行事への参加状況。(10月1日現在98%) ・地域教材、地域人材を活用した実践を継続中。(10月1日現在、実施済み4学年)	4	4	地域行事に積極的に参加できるよう、情報提供をその都度行う。(後期行事は、フェスタ、一斉清掃、しめ縄づくり、餅つき、とんど等)	・地域行事への参加状況。(3月1日現在99.9%) ・地域教材、地域人材を活用した実践を全学年で実施した。	4	4	4	・次年度に向けてカリキュラムマップの見直しを行い、地域教材・地域人材を活用した授業実践を系統的に行う。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。